

東京 IPO 特別コラム

2018年8月22日 Vol.127

経験則から見た長期下落銘柄の下値目途

このところの需給悪もあり、マザーズやJASDAQなどの中小型銘柄の株価下落が顕著です。どこまで下がるのか読めない中で下値を探る動きが見られる一方、主力銘柄で構成される日経平均は比較的底堅いとも言えます。ただ本日はソフトバンクやKDDIが菅官房長による携帯電話料金の値下げ言及から売られた一方でファーストリテイリングの株価上昇でカバーするなど指数の堅調さに秘める裏事情が気になるところです。多くの個人投資家にとっては保有する銘柄の値下がりか悩みの種になっているかと思われます。先行き不透明感が投資家の売り行動になって表れると相場の悪循環につながります。ただ市場動向を冷静に見てみると業績動向で二極化しているのがわかります。

IPO時の成長期待が現実の業績の発表後に剥落して下値模索の動きになるケースが活発する一方で、成長期待の継続もあり右肩上がりのトレンドを継続している銘柄も見出せます。例えば昨年1-8月のIPO銘柄（マザーズ、JASDAQ）の中ではレノバ（9519）、ジャパンエレベーターサービスホールディングス（6544）、オロ（3983）のような連続して増収増益を続ける銘柄の株価上昇が顕著な一方、シャノン（3976）、うるる（3979）、ズーム（6694）、ピーブレイクシステムズ（3986）、旅工房（6548）といった減益銘柄の株価下落が見られます。

好業績銘柄の上値追いに関心をもつトレンドフォロー型でいくべきか、株価の大幅な下落で下値圏にあると見られる銘柄に焦点を当てるのか、投資家各位にとっては悩ましい状況だろうと推察されますが、ここでは半年以上の長期にわたって株価の値下がりトレンドを続ける銘柄の下値目途に注目したいと思います。「資産形成は安値で買って高値で売ることによってもらえる。」とは言え、まるでゲリラ豪雨のような短期的な相場潮流に逆らうのは至難の業。現実にはなかなかできないのかも知れません。

売るから下がる、下がるからまた不安になって売るという悪循環の中で筆者は下値の目安をある程度、機械的に高値から60%の値下がり水準に置いています。これには理論的な理屈はなく経験則からのものですが、過去のIPO銘柄の株価変動をチェックすると概ね60%以上も株価が下落すると自然体の中で株価は大きく反発に向かっていく場合を数多く見てきました。これには業績の好転というだけではなく企業努力や企業のポジティブな変化を反映したものかも知れませんが、業績が下方修正されて低迷してきた銘柄も売りが一巡し、あきらめの境地で売却してきた投資家も少なくなったところに積極的な買いスタンスの投資家が現れての反転上昇となっているものと推察されます。こうした反転上昇は業績の先行きを読み取った投資家の行動の現われとも言えますが企業側もIPO後に積極的に取り組んでいなかったIR活動を1年ぐらいしてから活発化するということがあります。株価低迷を打破する可能性のある2017年1月から8月のマザーズ、JASDAQへのIPOで高値から60%以上も値下がりした銘柄は以下の通り。参考にしてください。

東京 IPO 特別コラム

【参考：高値から直近の安値まで60%以上下落したマザーズ、JASDAQ銘柄】

1. シャノン(3976)M H7370円→L1411円(▲80.9%)
2. うるる(3979)M H5600円→L1931円(▲65.5%)
3. インターネットインフィニティ(6545)M
H3470円→L1277円(▲63.2%)
4. ソレイジア・ファーマ(4597)M H 652円→L 221円(▲66.1%)
5. ズーム(6694)JQ H3540円→L1290円(▲63.6%)
6. No.1(3562)JQ H4135円→L1540円(▲62.8%)
7. ビーブレイクシステムズ(3986)M H8300円→L2223円(▲73.2%)
8. ディーエムソリューションズ(6549)JQ
H4250円→L1255円(▲70.5%)
9. SYSホールディングス(3988)JQ
H2850円→L 987円(▲65.4%)
10. クロスフォー(7810)JQ H841.5円→L325円(▲61.4%)

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)